

リモコン自己点検機能付

ブラケット階段灯 非常用照明器具・階段通路誘導灯兼用型 (電池内蔵形)

保管用



(防雨型)

器具タイプ		品番		
		常用光色色：昼白色	常用光色色：温白色	常用光色色：電球色
透過タイプ	乳白	NWCF59010 LE1	NWCF59013 LE1	NWCF59011 LE1
	クリスタル	NWCF59310 LE1	NWCF59313 LE1	NWCF59311 LE1
間接タイプ	ブラック	—	NWCF59513 LE1	NWCF59511 LE1
	シルバーメタリック	—	NWCF59613 LE1	NWCF59611 LE1
フレームタイプ		NWCF59410 LE1	NWCF59413 LE1	NWCF59411 LE1
スモークタイプ		—	—	NWCF59211 LE1
スリットタイプ	ブラック	—	—	NWCF59811 LE1
	シルバーメタリック	—	—	NWCF59911 LE1

● 器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

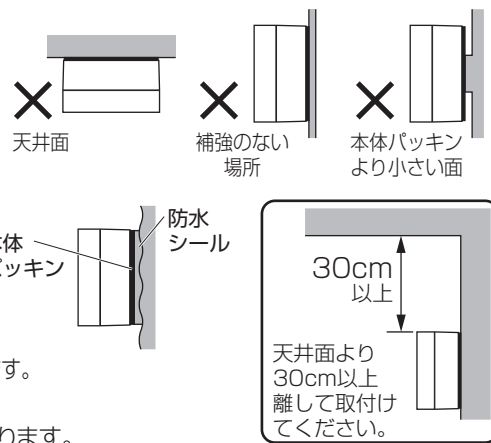
施工説明

工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

- 施工は、施工説明にしたがい確実に行う。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧±6%)、周波数で使用する。指定外の電源電圧・周波数で使用すると感電・火災の原因となります。
- 壁面取付専用です。点検スイッチが下になる方向に取り付ける。他の取付けはしないでください。落下・感電の原因となります。
- すきまを防水シール材等で埋める。不備があると感電・火災の原因となります。
- 背面(電源穴や取付部)から、水の浸入がある場所には取付けない。感電・火災の原因となります。
- 電気設備技術基準にしたがい、D種(第3種)接地工事をする。接地が不完全な場合、感電・漏電の原因となります。
- 非常用光源部のレンズはガラス製のため、取り扱いに注意する。破損によるけがの原因となります。
- カバーが破損した状態で使用しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を短絡・分解したり火や水に投入しない。破裂・やけど・感電・火災の原因となります。



注意

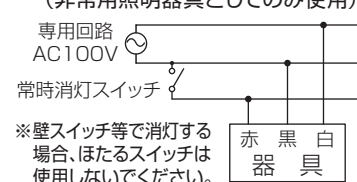
- 軒下などの雨線内で使用できます。ただし、風の強い場所、常時高温・高湿度になる場所、腐食性ガスの発生する場所、塩害を受ける場所、屋内プールなどの塩素雰囲気さらされる場所、振動の強い場所、エアコンの冷風が直接当たる場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 直射日光の当たる場所には設置しないでください。過熱による故障・耐用年限が短くなる原因となります。
- 周囲温度は、5~35℃で使用してください。指定外の周囲温度で使用すると、蓄電池の劣化、ちらつきや耐用年限が短くなる及び非常点灯しない原因となります。
- 調光器と組み合わせて使用しないでください。火災の原因となります。
- 寒冷地等で外気に通ずる場所に設置した場合、非常点灯時間が極端に短くなる恐れがあります。やむを得ず設置する場合は、非常点灯時間の点検を頻繁に行ってください。(少なくとも半年ごとの点検は必要) 自己点検用リモコン(別売)をご使用頂けると、点検が簡単となります。
- この器具の電源は、専用回路にしてください。
- 階段通路誘導灯として使用される場合、常時、連続点灯してください。常時、消灯して使用される場合は、事前に所轄消防署の了解を得てください。消灯される場合は、自動火災報知設備との連動が必要なため、誘導灯用信号装置等を用いて消灯してください。
- 電源と通電せずに、蓄電池を接続したまま放置しないでください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。
- 48時間充電後、非常点灯の確認をしてください。充電しないと非常点灯しません。
- 器具の取り付け、取り外しは手袋などの保護具を使用してください。けがのおそれがあります。

配線種類

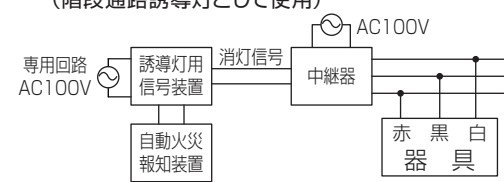
A. 消灯なし(2線式配線)の場合



B. 消灯あり(3線式配線)の場合 (非常用照明器具としてのみ使用)

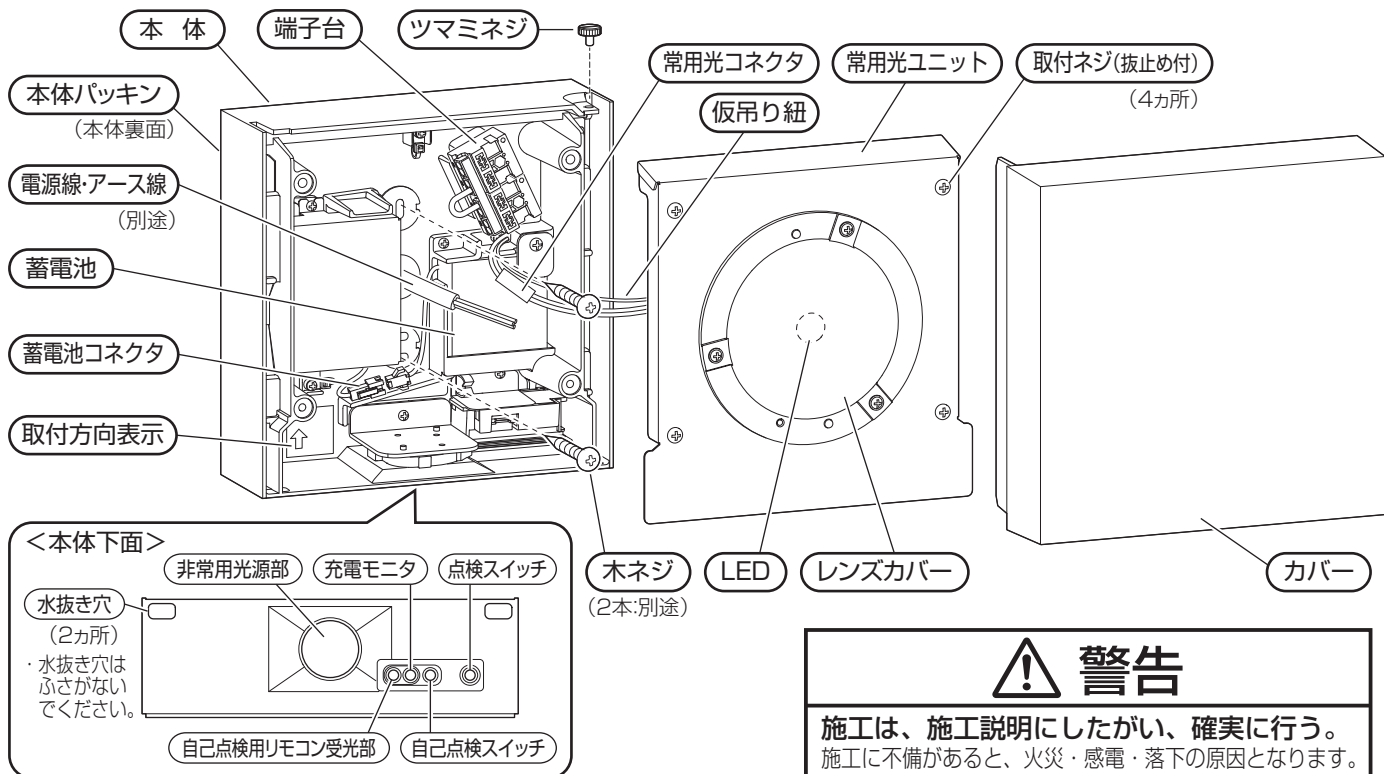


C. 消灯あり(3線式配線)の場合 (階段通路誘導灯として使用)



各部のなまえと取付方法

※姿図は NWCF59310LE1 の例で説明しています。



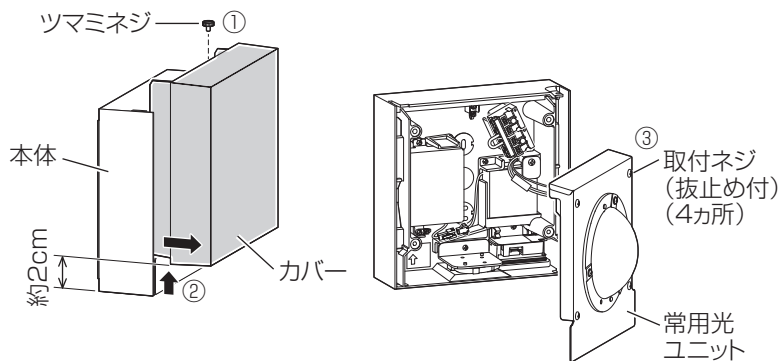
1 取付前の確認

- 器具質量 (3.0kg : NWCF59811LE1の場合) に十分耐えるよう、取付面の強度を確保する。不備があると器具落下の原因となります。

2 カバーと常用光ユニットの取外し

- ① ツマミネジを外す。
- ② カバーを2cm程度持ち上げ、本体からカバーを引き抜く。
- ③ 取付ネジ(抜止め付) (4ヶ所)を緩め、常用光ユニットを取外す。

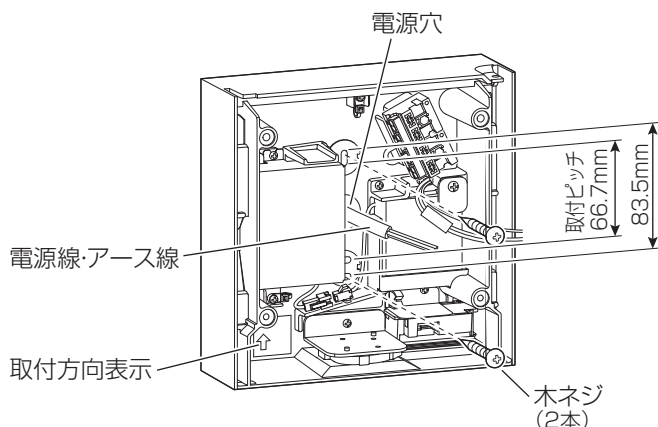
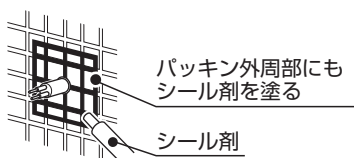
注) 常用光ユニットは本体から静かに吊り下げてください。仮吊り紐と常用光コネクタは取り外さないこと。



3 本体の取付

- 電源線・アース線を本体の電源穴から引き込む。
- 取付方向表示の指定方向にしたがい、木ネジ (2本) にて本体を確実に取付ける。取付けに不備があると器具落下の原因となります。

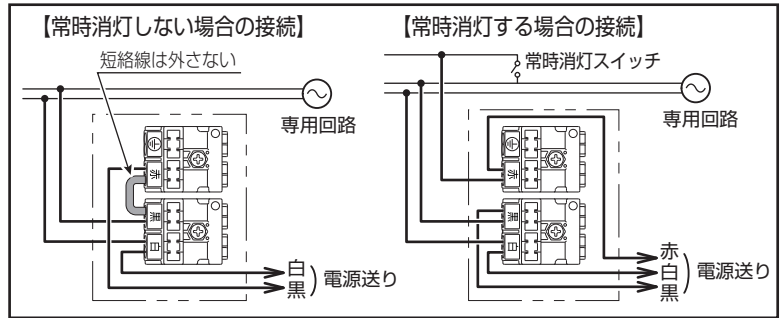
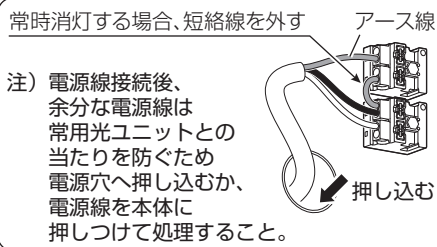
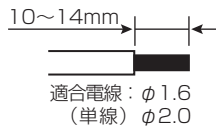
注) タイル面など取付面に凹凸がある場合は、取付面と本体パッキンとのすき間を防水シール材などで埋めてください。不備があると火災・感電の原因となります。



各部のなまえと取付方法 (つづき)

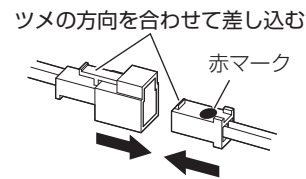
4 電源線・アース線の接続

- ・電源線・アース線を端子台に確実に差し込む。
- ・端子台の容量は20Aです。(送り付き)
- ・D種(第3種)接地工事が必要。
接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、
感電・火災の原因となります。



5 蓄電池コネクタの接続

- ・蓄電池コネクタの方向を合わせ、確実に奥まで差し込む。方向を間違えると器具が故障します。接続が不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。電源通電までに長時間かかる場合はコネクタを接続せず、通電後にコネクタを接続してください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

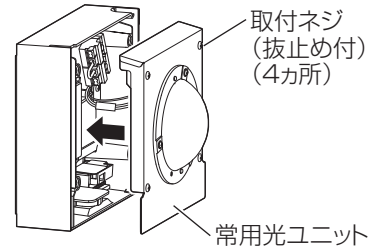


6 設置年マークの貼付け

- ・器具内に貼付けられている設置年マークの該当する年度を、器具の外郭に貼り付ける。

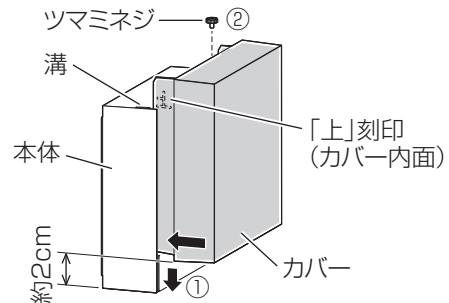
7 常用光ユニットの取付

- ・本体に常用光ユニットを押し当て、取付ネジ(抜止め付)(4カ所)を締め付けて常用光ユニットを確実に取付ける。(推奨トルク値: 1.0N・m)



8 カバーの取付

- ①カバーの「上」刻印を上側にし、本体から約2cm浮かせた位置からカバーを本体の溝に差し込む。
- ②ツマミネジを締め付ける。
取付けに不備があるとカバー落下の原因となります。



9 点灯確認

- ・電源通電状態で常用光ユニットおよび充電モニタが点灯するか確認する。
- ・常時点灯状態で点検スイッチを押し非常点灯を確認する。(充電モニタは消灯します。)

蓄電池は設置後通電し充電しないと非常点灯しません。正常に動作しない場合は

故障かな?と思ったときは (7ページ)

の項をご確認ください。

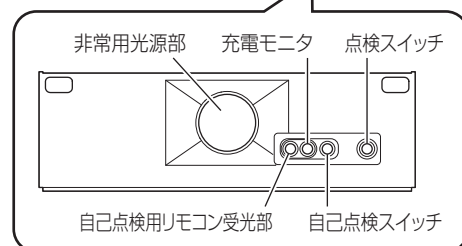
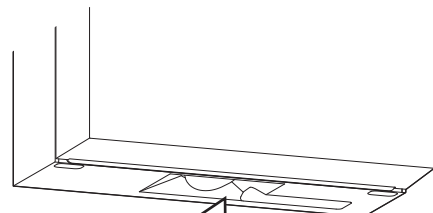
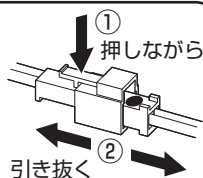
非常点灯中に蓄電池を外した場合、充電モニタが緑点滅する可能性がありますのでご注意ください。

点灯確認後、長時間電源を通電しないときは蓄電池を外してください。

蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

蓄電池コネクタの解除方法

注) 電線を引っ張らないでください。



・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

⚠ 警告

- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- 布や紙など燃えやすい物でおおわない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、異臭がするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 充電モニタ(緑色)が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。
通電状態でない場合、充電モニタ(緑色)の点滅が正常(点灯状態)に戻りません。
- 製品に衝撃を与えない。破損した場合、感電・火災の原因となります。
万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- カバーが破損した状態で使用しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を加熱したり、火や水に投入しない。破裂する危険があります。
- 蓄電池を分解しない。やけど・感電の原因となります。蓄電池内の液は、皮膚や衣類をいためます。
- 落下した蓄電池は使用せず、回収をリサイクル業者に依頼する。
但し、落下した際にケースが破損した場合は、電極部と金属部分が接触しないよう電気絶縁用ビニルテープで絶縁し、各自治体のルールに従い、廃棄物として処理する。
不備があるとショートによる破裂・やけど・感電・火災の原因となります。

⚠ 注意

- 光源として高輝度LEDを使用しています。長時間の直視は避けてください。
- シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で器具を拭かないでください。
変色・変質・強度低下による破損の原因となります。
水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
- 照明器具には耐用年限があります。^(※1)
法令に基づいて定期的に点検を実施してください。
点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災などに至る場合があります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
3年に1回は工事店等の専門家による点検を受けてください。
必要な場合は弊社営業所へお申し出ください。(チェックシート番号：CLX2021JA)
点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。
点検を行っていても、耐用の限度を超えて使用すると、落下・感電・火災に至る場合があります。
- 長時間器具を使用しない場合は、蓄電池は外してください。
蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

※1 照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8～10年が取り換え時期の目安です。
但し、蓄電池は、4～6年です。使用条件は周囲温度30℃です。

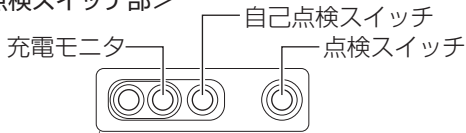
■常用光ユニットの光源の光束維持時間は、40,000時間(光束維持率70%)です。周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合など耐用年限が短くなります。点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。

使用上のご注意

- ・LED素子にバラツキがあるため、同一品番でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。予めご了承ください。
- ・電源を通電しないまま蓄電池コネクタをつないで放置しないでください。非常時に点灯しません。また、蓄電池の寿命が短くなります。
- ・点検時以外は点検スイッチを操作しないでください。
- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。
- ・非常用照明器具としてのみ使用し、壁スイッチなどで消灯する場合においてもほたるスイッチは使用しないでください。
- ・器具周囲に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。
(一部の食品や薬品、紙類などには硫黄成分が含まれます。また、車の排気ガスにも硫黄成分が含まれます。)光学性能に影響を与える場合があります。

モニタと自己点検スイッチについて

<点検スイッチ部>



自己点検スイッチ

- ・蓄電池の容量確認検査が行えます。(判定に30分かかります。)
- ・2秒以上押しと 検査を開始します。(充電モニタ(緑)が消灯します。検査終了後は自動的に復帰します。)
- ・自己点検スイッチの動作には、48時間以上の充電が必要となります。(48時間以内に、3秒以上の停電・非常点灯があった場合は点検動作しません。)

充電モニタ (緑)

蓄電池が充電されているか確認できます。また自己点検「可」のお知らせをします。

	緑色点灯	正常です。
	点灯しない	・蓄電池が充電されていません。 ・非常点灯になっていないか、または、蓄電池が外れていないかを確認してください。 ・リモコンの「点検」スイッチまたは「確認」スイッチを押した場合、点検「不可」をお知らせします。
	緑色点滅	蓄電池の交換時期の目安です。蓄電池の容量低下や異常を緑色点滅でお知らせします。
	約1秒間緑色点滅 (4回)	リモコンの「確認」スイッチを押した場合点検「可」をお知らせします。

自己点検用リモコンについて

適合リモコン品番：FSK90910K (別売)

スイッチ各部の名称と働き

「中断」スイッチ

点検動作を中断し、通常状態に復帰させるときに使用します。

①「確認」スイッチ

非常灯器具が48時間の充電が完了しているかを確認するときに使用します。



チャンネル

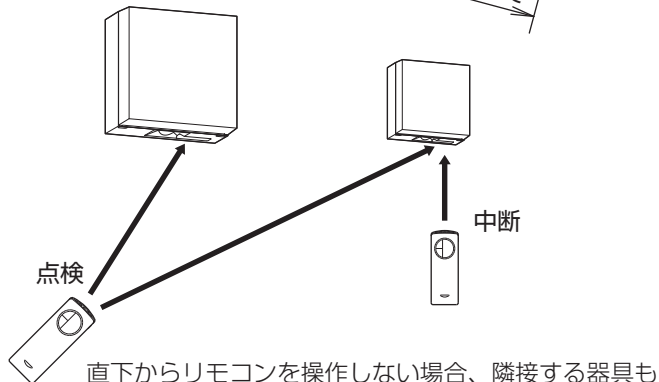
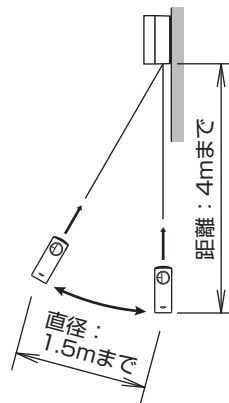
使用時、チャンネルは「2」にセットして下さい。(チャンネル「1」は誘導灯用です。)

②「点検」スイッチ

定格時間の非常点灯確認を開始します。(器具本体の自己点検スイッチを押したときも同様です。)

リモコン操作エリアについて

リモコンを操作するときは点検する非常灯器具の真下からリモコンを非常灯器具に向けて送信してください。



直下からリモコンを操作しない場合、隣接する器具も受信してしまうことがあります。その際は隣接する器具の直下から、リモコンの「中断」スイッチを押して点検を中断してください。

注) 中断した場合は、再度48時間充電が必要です。

リモコンによる点検方法

- ・チャンネルを「2」にセットしてください。(チャンネル「1」は誘導灯用です。)
- ・充電モニタ(緑)が点灯していることを確認してください。

1	リモコンの「確認」スイッチを押してください。 【器具本体の充電モニタを確認してください】 ・充電モニタ(緑)が約1秒間点滅(4回) ⇒点検準備が出来ています。②に進んでください。 ・充電モニタ(緑)が約1秒間消灯 ⇒点検準備が出来ていません。48時間以上充電してください。
2	リモコンの「点検」スイッチを押してください。 【器具本体の充電モニタを確認してください】 ・充電モニタ(緑)が消灯(非常点灯に切り換わります) ⇒③に進んでください。
3	蓄電池の容量確認が行えます。(判定に30分かかります。) 【器具本体の充電モニタを確認してください】 ・充電モニタ(緑)が点灯 ⇒ 正常です。 ・充電モニタ(緑)が点滅 ⇒ 蓄電池の交換時期です。

- 途中で点検を中断する場合、リモコンの「中断」スイッチを押してください。
【器具本体の充電モニタを確認してください】
・充電モニタ(緑)が点灯(通常状態に戻ります。)

リモコンスイッチと器具状態の対応表

	器具の状態		
	充電中 (充電時間48時間未満)	充電完了状態 (充電時間48時間以上)	点検中
「点検」スイッチ	充電モニタ(緑)約0.5秒間消灯(光源が点灯)(注)	点検開始(充電モニタ(緑)点灯⇒消灯)	— (充電モニタ(緑)消灯したまま)
「中断」スイッチ	— (充電モニタ(緑)点灯したまま)	— (充電モニタ(緑)点灯したまま)	点検中断(充電モニタ(緑)消灯⇒点灯)
「確認」スイッチ	充電モニタ(緑)約1秒間消灯(注)	充電モニタ(緑)約1秒間点滅(4回)(注)	— (充電モニタ(緑)消灯したまま)

— の場合は充電モニタの状態に変化はありません。

(注) リモコンスイッチを押し続けると上記の状態を繰り返します。(例: 「確認」スイッチを押し続けると、充電モニタ(緑)が点滅し続けます。)

お手入れ・部品交換

- 器具の清掃について・・・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。
変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
- 部品の交換について・・・下記の指定された部品を使用してください。

器具品番	常用光ユニット	蓄電池
NWCF59010 LE1 NWCF59310 LE1	FK98400	FK762 (4.8V 1200mAh)
NWCF59013 LE1 NWCF59313 LE1	FK98403	
NWCF59011 LE1 NWCF59311 LE1	FK98401	
NWCF59513 LE1	FK98453	
NWCF59511 LE1	FK98451	
NWCF59613 LE1	FK98463	
NWCF59611 LE1	FK98461	

器具品番	常用光ユニット	蓄電池
NWCF59410 LE1	FK98610	FK762 (4.8V 1200mAh)
NWCF59413 LE1	FK98613	
NWCF59411 LE1	FK98611	
NWCF59211 LE1 NWCF59811 LE1	FK98651	
NWCF59911 LE1	FK98661	

常用光ユニット交換方法

- 常用光ユニットの交換は、交換用常用光ユニットに同梱の補修説明書に従い行ってください。

蓄電池交換方法

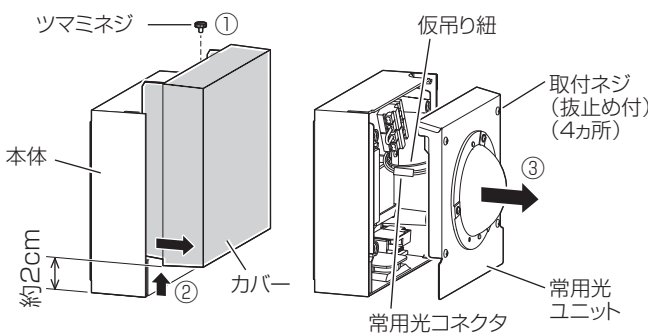
- 充電モニタ(緑)が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。点滅が解除されます。無通電状態で蓄電池を交換した場合は充電モニタ(緑)の点滅が解除されません。
- 3線式配線の場合、常用光ユニットの電源(壁スイッチなど)を切って作業してください。2線式配線の場合、常用光ユニットが点灯したままとなりますので、光源を直視しない、手袋などの保護を使用し直接光源部に触らないなど安全に配慮ください。

※姿図は NWCF59310LE1 の例で説明しています。

① カバーと常用光ユニットを取り外す

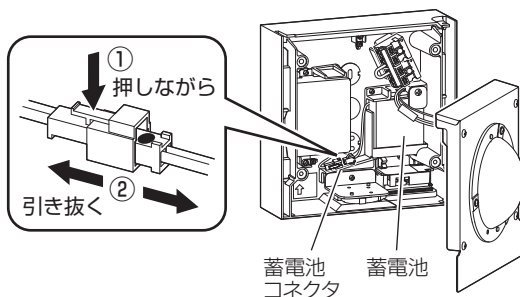
- ツマミネジを外す。
- カバーを2cm程度持ち上げ、本体からカバーを引き引く。
- 取付ネジ(抜止め付)(4カ所)を緩め、常用光ユニットを外す。

注) 常用光ユニットは本体から静かに吊り下げてください。仮吊り紐と常用光コネクタは取り外さないこと。



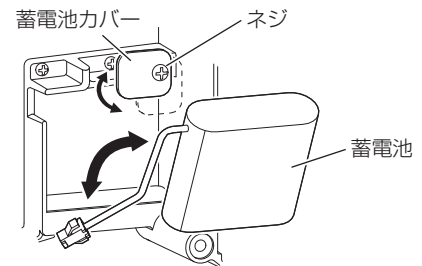
② 蓄電池コネクタを抜く

注) 電線を引っ張らないでください。



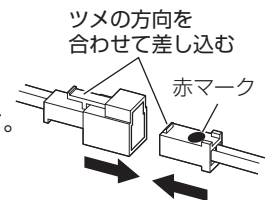
③ 蓄電池の交換

- ネジを緩めて蓄電池カバーを回転させる。古い蓄電池を取り出す。
 - 新しい蓄電池を取付ける。蓄電池カバーを回転させ、ネジを締め付ける。
- 注) ネジを外してしまうと蓄電池カバーが本体から外れます。その場合付け直してください。



④ 蓄電池コネクタの接続

- 蓄電池コネクタの方向を合わせ確実に奥まで差し込む。方向を間違えると器具が故障します。接続が不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。



⑤ 電池交換年マークの貼付け

- 新しい蓄電池に同梱されている電池交換年マークの該当する年度を、設置年マークの近傍に貼り付ける。

- 手順⑤まで行ったあと、常用光ユニット・カバーの取付と点灯確認は3ページ「各部のなまえと取付方法」手順7～9を参照して行ってください。

警告

- 感電のおそれあり
器具清掃時は、必ず電源を切ってください。(非常点灯します。)
- レンズ破損のおそれあり
非常用光源部のレンズはガラス製です。取り扱いに注意してください。

保証について

- ・保証について…… この商品の保証期間は1年間です。但し、LED電源は3年間です。
電池などの消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
- ・保証書について…… 保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
- ・補修用性能部品の保有期間…… 弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。
補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

パナソニック エレクトリックワークス株式会社 〒571-8686 大阪府門真市門真 1048

お問い合わせ先 照明器具・ランプ商品ご相談窓口 <https://sumai.panasonic.jp/support/>

0120-187-441 (フリーダイヤル) 【受付時間】月～土/9:00～18:00 (祝日・三が日を除く) ※携帯電話からのご利用になれます。

0120-872-460 (FAX)

KE0523-030426